

問 職員と一体の住民サービスの提供は

答 職員の頭脳集団で先頭的な人材育成を



太田 修議員

【行政組織の活性化について】

問 職員と一体の住民サービスの提供と組織体制は。

村長 職員研修会等を通じ、秀でた頭脳集団となり、住民の先頭に立つて行動できる人材の育成や、人事評価制度も、単に点数付けの手段でなく、村長と上司と担当者をつなぐ糸と考え相互の交流を図り、高いところを目指したいと考えている。組織体制は国の地方創生事業に合わせ政策担当部署を庁内に設ける自治体もあるが、現行の組織体制を変えずに充実・強化を図る。

問 住民の声を行政に活かすシステムと、地区担当職

員の活用は。

村長 第5次総合計画の基本計画の策定を進める中で、地域に向き、住民と議論しながら、意見、要望を広く聞きながら計画に反映したいと考えている。また、地区担当職員は地域役員懇談会に出席し、地区の要望等を中心に各制度や相談に応じている。地区担当職員制度が始まり10年が経過することや、地区役員懇談会の検証等を含め、見直しと改善に努める。

【公約の観光振興について】

問 四季を通じた白馬の魅力の発信は。

村長 スキーシーズンと夏のハイシーズンに集中している状況が30年程変わらず、1年を通して景色、食、体験等の資源を磨き情報発信を行うことで、誘客につなげたいと考えている。

問 民間活力を活かした観光局の改革は。

村長 副村長を代表理事にした新たな組織体制にした。特に28年度は「山の日」の制定及び自転車を中心に取り組み、さらには農業と観光を結び付けた産業間連携による基礎づくりを進める。観光局の改革は、会員の拡大と強化、財政面での新たな改革に取り組む。

新しい道の駅構想は。

村長 道路利用者の休憩機能や地域の情報発信機能等の充実を図り、幅広い産業間連携で個性豊かな賑わいの場づくりを目指す、村が前進するように取り組む。平成28年度は第1段階として、庁内に建設検討チームを設け、建設方針を明確にしたうえで財源を含めた整備手法、及び共同調理場、図書館等の公共施設の複合的な整備も踏まえ検討を行う。

【農業振興について】

問 白馬ブランドの開発と情報発信は。

村長 ふるさと納税の返礼品として、米やブルーベリー、紫米、食用ほおずきや、北アルプス山麓ブランド品の中から白馬の農産物を提供している。寄付者からは米を中心に需要が多く、新年度から白馬産米のブランド化に向けて、小さい面積から始め、美味しい米づくりの準備を進めている。農産物に関しては「銀座NAGANO」を活用したイベントも予定している。

問 圃場整備による優良農地の確保は。

村長 国の補助事業である農業競争力強化基盤整備事業の活用を念頭に、対象予定地としてオリンピック道路沿いの深



検討される道の駅白馬

空、八方口などを中心とした地権者・耕作者を対象に、説明会やアンケート調査を実施した。この県営事業は事業採択まで、地元と村が取りまとめる必要があることから、地元の組織づくりを進める。